

八王子市における「まち」のイメージに関する基礎的研究

—「八王子を舞台にした小説」に示された10冊を対象として—

A Basic Study on the Image of “Town” in Hachioji City

-Focusing on the 10 Books Shown in “A Novel Set in Hachioji City”-

○大久保悠悟¹, 天野光一², 西山孝樹²

*Yugo Okubo¹, Koichi Amano², Takaki Nishiyama²

In this study, 10 books were extracted from “Novels set in Hachioji city” published on the homepage of Hachioji city library. As a result, in addition to the image of Hachioji city as a whole or each area, it became clear that various facial expressions were drawn, such as a bird’s-eye view of the city and a comparison of old and new cityscapes.

1. はじめに

今日、わが国では人口減少に伴い、地方部の地域づくりの担い手不足に直面すると考えられる。そのようななかで、関係人口の構築などが取り沙汰され、地方部の魅力を再発見することが注目されている。

2. 研究方法

そこで本稿では、八王子市立図書館ホームページで公開されている「八王子を舞台にした小説」のなかから10冊を抽出し、八王子市の記述を抜き出してその魅力などがどのように記載されているか考察を行った (Table. 1) [1].

3. 小説にみる八王子市に関する記述の特徴

研究対象とした10冊から、八王子市の記述は150ヶ所抽出した。なお、重複を許してカウントしたため、合計は150ヶ所とはならない。

(1) 市全体のイメージ

八王子市全体のイメージが描かれた記述で、60ヶ所の記述が存在した。東京都のどのあたりに位置するかを表現した「東京の西の果てまで来た」という記述があった【Table. 2 (1) a)】。

旧来のまちと新興住宅街の対比がなされていた。例えば「どうやらここは山を切り開いて作られた新興住宅街のはずれみたいだ。林と空き地と建てかけの家がごちゃごちゃと入りまじっている。「おい、八王子の町が見えるぞ」よく見ると、遠くに、八王子駅周辺のビルがたそがれの中に光っている。子安の連中にとって

は近所でも、僕らには月に一度行くか行かないかという「町」だ【Table. 2 (1) b)】とあり、地域による風景の違いが示されていた。

(2) 市内における地区ごとのイメージ

市内の地区ごとのイメージが描かれていた。賑わいある中心地としての表現としては、「八王子は北口が一方的に栄えており、デパートや本屋や洋服屋があ

Table. 1 研究対象とした八王子市を舞台にした小説一覧

No.	本のタイトル	作者名	出版社	出版年
1	父が消えた	尾辻克彦	文藝春秋	1986.08
2	大久保長安	堀和久	講談社	1987.07
3	八王子城滅亡	川村掃部	南雲堂	1994.12
4	八王子のレッド・ツェッペリン	木根尚登	角川書店	1996.01
5	北条氏照異伝	日下部政昭	郁朋社	2001.03
6	わが身世にふる、じじわかし	芦原すなお	東京創元社	2007.01
7	またやぶけの夕焼け	高野秀行	集英社	2012.07
8	展覧会いまだ準備中	山本幸久	中央公論新社	2012.12
9	吹部!	赤澤竜也	飛鳥新社	2013.08
10	芸者でGO!	山本幸久	実業之日本社	2014.07

Table. 2 八王子市を舞台にした小説にみる「まち」のイメージ分類結果

大項目	中項目	件数
(1) 市全体のイメージ	a) 東京都における八王子市の位置	2
	b) 旧来のまちと新興住宅街の対比	28
	c) 市民の日常生活の様	30
(2) 市内における地区ごとのイメージ	a) ロードサイド店舗など郊外の表現	8
	b) 賑わいある中心地の表現	10
	c) 新興住宅地の代わり映えない様	17
	d) 地域の歴史・文化の資源の紹介・再発見	21
(3) 視点場からのまちの見え方	a) ～越しに～がみえる (高低差によるまちの表情の変化)	4
	b) 移動を伴う景色やまちの表情の変化 (シークエンス景観)	7
	c) ランドマークの詳細な描写	28
(4) ランドマークとなる施設の紹介	a) 有名人・著名人の住まい	2
	b) 河川などの自然地形	7
	c) 中心市街地のなかでも有名な店舗や施設	17
	d) 通り名や社会基盤施設の描写	27
(5) 時代の変化に伴うまちの変化 (回想)	a) ニュータウンの開発過程	3
	b) 街路樹など植栽の成長	5
	c) 八王子市の成り立ち (鉄道敷設による影響)	11
(6) 地域の特産品やグルメの紹介		4
(7) 交通機関の利用	a) 市外からのアクセス方法	4
	b) 市内で利用できる交通の描写	14
(8) 地域の境界 (エッジ) を描写	a) 崖線や河川などの自然地形による境界	5
	b) 線路や道路などの社会基盤施設による境界	15

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

る。僕たちはそこへ行くとき、「八王子の町に行ってくる」と親や友達に言う」などがあり、とくに駅前の記述が多く、出口によってまちの雰囲気異なることに言及した記述もみられた【Table. 2 (2) b), (3) c)】。

その一方で、中心部から離れた場所の記述であれば、「田園風景でもよく見ると近所に高速道路が走っているし、国道沿いには量販店がある」とあり、郊外のいわゆるロードサイド店舗を想起される記述も存在した【Table. 2 (2) a)】。

また、「それにニュータウンのはずれにはこんな風に神社もあるだろ。もしかしたら何百年も前からあった神社かもしれないよ。街の片隅にはそんな歴史が埋もれている。八王子には花街もあるし、古戦場だってある。足もとをよく見てみたら、表情は豊かだよ」とあり、埋もれた地域資源に着目した記述もみられた【Table. 2 (1) b), (2) d)】。そのほかに、歴史資源として「たこ杉」や「子安神社」など、地域で有名な資源にも触れられていた【Table. 2 (2) d), (4) c)】。

(3) 視点場からのまちの見え方

ある視点場から、対象物がどのように見えているかが表現されていた。例えば、「校庭の向こうには八王子の街並みが広がっている」のように、俯瞰してまちを眺める様子が垣間見られ、市内の地形に起伏があることが表現されていた【Table. 2 (3) a)】。

その他にも、「電車はいつもの三鷹駅の固まった風景を、もう一枚めくるように動き出した。いつも見慣れていたつもりの風景が、どんだんめくられて通り過ぎて行く」とあり、小説の登場人物が八王子市内を移動することで風景に変化が生じる、いわゆるシークエンス景観の表現もなされていた【Table. 2 (3) b)】。

(4) ランドマークとなる施設の紹介

八王子市のランドマークとしては、賑わいがある八王子駅前に所在する商店街の賑わいや八王子郵便局が挙げられていた【Table. 2 (4) c)】。

また、八王子市で行われるイチョウ祭りの記述では、「八王子の有名な祭りで、ちょうどイチョウが黄葉の頂点に達するころ、市のだ真ん中を貫く甲州街道に沿って二日間開かれる。祭りの主役は街道沿いに並ぶ露店だ。古着、日用雑貨、手作りのパンやベーコンやらの食品、さまざまの店が出る。大フリーマーケット大会と、従来の祭りが一緒になったみたい」とあるように、甲州街道という目貫通りで実施されることが示され、その賑わいが紹介されていた【Table. 2 (4) d)】。

その他にも、八王子市を貫流する浅川については、

「八王子のだ真ん中を流れる母なる川」としての紹介もなされていた【Table. 2 (4) b)】。

(5) 時代の変化に伴うまちの変化 (回想)

現代の八王子ではみられないが、昔はこうだったと回想する記述が存在した。例えば、京王線の北野駅では、「北野の駅前には、僕が小学一年のころは一面田んぼで、「どうしてこんな田んぼの真ん中に駅を作ったんだらう？」と不思議に思うくらいだったが、田畑は年々減っていき、小学四年のこの年にはもう宅地の方が多くなっていて」と宅地開発の様子が自身の体験と共に記されていた【Table. 2 (5) a)】。

また、「子安町は国鉄(のちのJR)八王子駅前に発展した「町」で、道路は広くて車も多い。商店街か住宅街で小さな公園がちょびちょびとある程度だ」とあり、鉄道の敷設、その開通により、交通結節点として八王子市が発展してきたことも詳述されていた【Table. 2 (5) c)】。

(6) 地域の特産品やグルメの紹介

地域のグルメとしては、「ラーメンとひと口に言うけれど、日本各地にさまざまな個性を持つ素晴らしいラーメンがある。そして東京にもいくつも名店があるが、わが八王子にもあるのだ、八王子ラーメンというのが。」とあり、B級グルメとして有名な八王子ラーメンや都まんじゅうの記述がみられた【Table. 2 (6)】。

(7) 交通機関の利用

八王子市内から近傍に所在する駅までのアクセス、乗り換えの様子が窺えた。例えば、「横浜線の本数は少ない。上り下りともに二十分に一本ずつ、両方で十分に一本のペースだ」が示されていた【Table. 2 (7) a), b)】。

(8) 地域の境界 (エッジ) を描写

ある八王子市内の地域において、当該のエリアと他のエリアを分ける表現がみられた。その境界の表現は、「中央線の路線を越えることが「第一の国境越え」だとすれば、浅川を渡るの「第二の国境越え」だ【Table. 2 (8) a), b)】。

また、「大和田橋を渡っているところだった」など、境界を跨ぐ表現もみられた【Table. 2 (8) b)】。

4. まとめ

本稿では、八王子市が描かれた小説を対象に考察を進めてきた。八王子市全体あるいは地域ごとのイメージに加え、市のランドマークとなる通り名などの記述が多かった。特に市内を俯瞰したり新旧の街並みを比較したりするなど、様々な市内の表情が描かれていた。

参考文献

- [1] 八王子市立図書館：「八王子を舞台にした小説」
<https://www.library.city.hachioji.tokyo.jp/pdf/8novel.pdf>, 2021.9.8 閲覧。